

名誉会員追悼



故 名誉会員 江本寛治 氏

一般社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元JFEホールディングス株式会社代表取締役会長 江本寛治氏は、平成27年9月1日、逝去されました。享年79歳。逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和33年3月九州大学 工学部冶金学科卒業後、川崎製鉄株式会社に入社、58年千葉製鉄所製鋼部長、62年千葉製鉄所企画部長、63年取締役昇任し水島製鉄所副所長、平成3年常務取締役 鉄鋼企画本部長、平成6年専務取締役 鉄鋼開発・生産本部長、7年取締役社長、13年取締役会長の各要職を歴任されました。社長時代に日本鋼管株式会社との経営統合に向けた協議を開始し、14年にJFEグループを誕生させ、JFEホールディングス株式会社の代表取締役会長に就任されました。

氏は、川崎製鉄入社後およそ30年間にわたって製鋼部門の業務に従事し、数々の技術開発により、業界の先駆者として製鋼技術革新の道を切り拓かれてきました。連続鋳造における生産性向上と適用鋼種の拡大による連鋳比率の飛躍的向上、転炉における全自動操業技術の確立、上底吹き転炉技術の開発とその活用による高纯净度鋼製造技術の開発、全量溶銲予備処理体制の構築と製鋼スラグミニマム化技術の確立など、今日の我が国の製鋼技術の礎を築かれました。

鉄鋼企画本部長時代には、グローバリゼーションをとまなう産業構造の変化のもとで、企業体質の改善、新規需要の創出、環境調和型の鉄鋼業への転換等に努力されました。激変する環境下においても、変わらずに基幹となりうる技術の創出に注力され、特に熱間圧延における連続圧延技術の開発やステンレス鋼における革新的精錬法の開発による千葉製鉄所リフレッシュプロジェクトを推進、最先端の製造技術で世界の高級鋼需要に応えるとともに、環境への負荷を低減する中規模都市型製鉄所の在り方に先鞭をつけられました。

川崎製鉄社長時代には、国内鉄鋼業再編の必要性を強く認識し、平成11年より日本鋼管株式会社と統合に向けた協議を開始、平成14年にJFEグループを誕生させ、日本の鉄鋼業のグローバル化を先導する役割を果たし、経営者としての卓越した指導力と統括力を発揮されました。

氏は、いかなる困難な状況にあっても、気魄とバイタリティをもって、軸のぶれない気骨あふれる「鉄の野武士」として立ち向かってこられました。また、その人となりは、厳しくも優しさ思いやりは深く、『鐵心』の雅号をもつ書道家でもあった氏は人を惹きつけてやまない存在でした。

氏は、長年にわたって本会理事、評議員を務められたほか、国際鉄鋼協会理事、経団連常任理事、日本鉄鋼連盟副会長など、数多くの団体の要職を歴任し、鉄鋼技術分野に留まらず、広く我が国の産業経済の発展にもその深い学識と豊富な経験によって多大な貢献をされました。氏のこれらの業績に対して、平成11年に本会より渡辺義介賞が授与されると共に、名誉会員に推挙されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽くされた多大な業績を偲び、会員一同、心から哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成27年12月

日本鉄鋼協会 会長 加藤雅治